

不登校 潜在SOS

原発災害
「復興」の影

■今を問う①

ていた子が、避難で転校を繰り返すうちに全く通えなくなってしまうと言った。生活環境変化が要因

県教委によると、2012（平成24）年度の県内の小、中学生の不登校は前年度は4.1%減と年々減少傾向にある中で増加している。いわき市小名で、県教委は震災と原発事故に伴う生活環境の変化が原因で、塾に通う不登校の中学生が、塾長の玉根洋一（56）にそう漏らした。東京電力福島第一原発事故で、同塾の女子生徒は玉根に、避難で一時故の前、玉根は富岡町や楡



「キッズハウス」で子どもを指導する玉根塾長(右)。原発事故を機に不登校の塾生が3倍に増えた=いわき市小名浜

避難で転校繰り返し返す心のケア手簿 対策急務

葉町でも指導に当たってお通った県外の学校での生活子どもたちの心の問題。故が本年度から着手した「子どもメンタルヘルス支援事業」で、子どもの心のケアに当たる同大特任教授のアに当たる。被災棟屋二部(41)児童精神科3県中でも福島は子ども内ケアが全て埋まっています。大半は避難者だ。玉根はもとでも学校が苦手、それでも踏ん張って通学し

天気		29日		旧暦 6月3日		友二引黒			
6	12	18	24時	30日	1日	2日	3日	4日	5日
福島	50	50	50	50	30	30	30	30	40
二本松	50	50	50	50	30	30	30	30	40
郡山	50	50	50	50	30	30	30	30	40
須賀川	50	50	50	50	30	30	30	30	40
田村	50	50	50	50	30	30	30	30	40
白河	50	50	50	50	30	30	30	30	40
相馬	60	60	60	60	40	40	40	40	40
南相馬	60	60	60	60	40	40	40	40	40
浪江	60	60	60	60	40	40	40	40	40

ストレスや心のつらさのない学校に深刻なケースの対処法を教える「心の授業」子どもがいる恐れがある

を行う。学校側からの需要 キッズハウスには、今もは多く、須賀川一小も訪問 不登校について相談が多くを受ける学校の一つ。校長 寄せられる。玉根は周囲のの渡辺真二(57)は「専門家 見守りが大切だと訴える。「不登校は今後も増えるた子どもたちの心の問題を相 談しようと思っても、小児 心療内科の専門家は限られ ているので、子どもを専門 教育現場や医療機関、親が としない精神科の医師に診 協力して支えるべきだ」

とらわしいかいないが現状 だ」と語る。

周囲の協力が不可欠 棟屋は「子どもたちの声 まだ解決できていない問題 なき声の存在を心配する。 や、時間が経過したことで 「支援を求めている子ども 表面化しつつある新たな問 題に光を当てる。

識も高い学校。依頼してこ (文中敬称略)